

基本方針	令和4年度達成目標	成果と課題(評価指標の結果も含めた成果、分析、評価、課題、対応)																																										
<p>「指定管理提案書」に掲げた「6つの事業」に基づき、江戸東京博物館の基本方針を以下のとおりとする。</p>	<p>資料:歴史と文化の<継承> ●「江戸東京の歴史と文化」を国内外に発信できる資料の収集を行うとともに、「江戸博コレクション」を適切に管理保管する。 ●11、210点の資料を新規Web公開し、次年度の公開に備え、およそ5万7000点の資料情報を確認、3万8000カットの写真撮影を行い公開に備えた。全点公開に向けさらなる体制整備が必要である。</p>	<p>●学芸員の地道な調査活動により、希少価値の高い資料を収集でき、コレクションの価値を高める活動が継続できた。また、4年間にわたって実施してきた大規模改修工事に伴う資料の全点移動を無事終了させ、移送先での保存管理体制を構築した。 ●11、210点の資料を新規Web公開し、次年度の公開に備え、およそ5万7000点の資料情報を確認、3万8000カットの写真撮影を行い公開に備えた。全点公開に向けさらなる体制整備が必要である。</p>																																										
<p>1. 資料:歴史と文化の<継承> (1) 61万点の「江戸博コレクション」を都民のかけがえのない文化遺産として、未来の都民へと継承すべく大切に保管する。 (2) 東京2020大会に関わる資料を積極的に収集し、その「レガシー」としてアーカイブ化を促進する。 (3)大規模改修について、収蔵品の計画的な搬出等、着実に準備を進める。</p>	<p>1 資料:歴史と文化の<継承> ●「江戸東京の歴史と文化」を国内外に発信できる資料の収集を行うとともに、「江戸博コレクション」を適切に管理保管する。 ●11、210点の資料を新規Web公開し、次年度の公開に備え、およそ5万7000点の資料情報を確認、3万8000カットの写真撮影を行い公開に備えた。全点公開に向けさらなる体制整備が必要である。</p>	<p>●学芸員の地道な調査活動により、希少価値の高い資料を収集でき、コレクションの価値を高める活動が継続できた。また、4年間にわたって実施してきた大規模改修工事に伴う資料の全点移動を無事終了させ、移送先での保存管理体制を構築した。 ●11、210点の資料を新規Web公開し、次年度の公開に備え、およそ5万7000点の資料情報を確認、3万8000カットの写真撮影を行い公開に備えた。全点公開に向けさらなる体制整備が必要である。</p>																																										
<p>2. 展示:歴史と文化の<発信> (1) 常設展示を中心として、豊富な実物資料や精巧な複製・模型を活用し、またICT技術を駆使した多面的な展示解説などによって様々な層に対し「江戸東京の歴史と文化」の多彩な魅力を発信する。 (2) 特別展は、江戸東京という都市史を主題とした当館の固有性に基づき、質が高く魅力にあふれ、オリジナリティあふれる企画を開催する。</p>	<p>2 展示:歴史と文化の<発信> ●大規模改修工事に伴い常設展示室の改修工事及び展示準備を行い、リニューアル・オープン後も「江戸博コレクション」を最大限に活用できる展示計画を策定する。 ●休館中もたてももの園や他の博物館において、質の高い展覧会を開催するための準備を行う。 ●リニューアル・オープン後の魅力的な展覧会の計画を策定する。</p>	<p>●常設展示室に出展していた2,000点に及び博物館資料をはじめ、展示ケースや模型、備品など、大量の物品を計画通り移設した。合わせて改修後の常設展示の展示計画を策定した。 ●ソウルとパリで国際交流展示を開催し成功を収めた。また、メディア等と協業し、令和5年度から7年度まで、館外にて実施する当館企画の巡回展示の計画を策定することができた。 ●館内の学芸員・司書にリニューアル・オープン後の展覧会の企画を募集し38名より提案を受け、令和8年度に特別展として実施する2本を選定した。この他の企画案に関して精査を進め、以降の計画を策定する予定である。</p>																																										
<p>3. 教育:歴史と文化の<学舎> これまでの教育普及事業を発展させていくとともに、子供・高齢者・外国人・障害者と対象を絞り、「少子高齢化」や「成熟社会」の到来など、時代の要請に応じた新たな教育普及プログラムを開発のうえ実践する。</p>	<p>3 教育:歴史と文化の<学舎> ●博物館へのアクセスが難しい対象に向けて、クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョーとして移動博物館を実施する。 ●リニューアル・オープン後の教育普及事業、ボランティア制度の計画を策定する。</p>	<p>●移動博物館事業として、ワークショップ19件を実施。視覚障害の学級が2件、知的障害の学級1件を含む実施を通じ、教育現場の需要や知見を得ることができた。また、常設展示をインターネット上で公開するドローン映像や、ゲームエンジンを通して新たな博物館体験を提案する「ハイパー江戸博」などの公開で注目を集めた。 ●他館の事例調査や移動博物館事業を通じて収集した情報をもとに、リニューアル・オープン後の教育普及事業の骨子を定めた。今後は実施までの具体案を策定していく。</p>																																										
<p>4. 運営:歴史と文化の<拠点> 「3S方針」(Safety:安全・安心、Service:おもてなし、Sense of Wonder:感動する博物館)を堅持する。とりわけ、災害やテロ対策をはじめとする「危機管理」については、最優先の課題として全館を挙げて取り組む。</p>	<p>4 運営:歴史と文化の<拠点> ●大規模改修に伴う事務室機能の移転について取組み、計画的かつ効率的に実施する。 ●お客様の安心・安全を第一として、ショップやレストランをはじめあらゆるミュージアムシーンにおいて、おもてなしと感動を与え続ける博物館であるために、リニューアルオープンに向けた準備を着実に進めていく。 ●オンラインコンテンツの更なる充実をはじめ綿密な広報戦略を展開するとともに、「江戸博ブランディング」を構築しつつ、休館中においても江戸博の魅力国内外に広く発信する。</p>	<p>●大規模改修工事中も施設管理や館外での事業等を円滑に遂行するため、必要な施設設備を検討してリニューアル準備室を整備し、計画的に移転作業に取り組み、予定通りの期日に引越した。今後は令和6年度の本館への移転に向けて準備を行う。 ●オンラインショップで販売を継続するとともにリニューアルオープン後のレストラン等について類似施設の情報収集等により魅力的な付帯施設の在り方を検討した。 ●展覧会や新規収蔵資料紹介など動画を効果的に使って計画的にSNSで発信するなど、休館中の館の事業等を幅広く発信した。また、デジタル媒体での使用に適したロゴへの改良の検討等を行った。</p>																																										
<p>5. 研究:歴史と文化の<究明> 江戸東京学の研究センターとして、「江戸東京の歴史と文化」をテーマとする調査研究を促進し、その成果を展示をはじめ、さまざまな事業に反映させ都民へ還元する。</p>	<p>5 研究:歴史と文化の<究明> ●「えどはくカルチャー」の実施や紀要、史料叢書などの刊行物とおして、調査研究の成果を広く都民に還元する。江戸東京の歴史と文化の独自性を比較・検討するため、国内外の博物館等と連携し調査研究を行う。 ●大規模改修工事の準備のため、外部倉庫への図書資料の移送を着実に実施するとともに、リニューアル準備室での開室ならびに閲覧サービスの準備を行い、都民サービスの継続を図る。</p>	<p>●館員の研究活動の成果を『紀要』『史料叢書』『調査報告書』(英語版)の刊行物や「えどはくカルチャー」などに反映させるとともに、館外の研究者と連携した調査研究も行き、江戸東京に関する研究センターとしての学術的役割を果たした。 ●外部倉庫への図書資料の移送を計画通りに実施し、リニューアル準備室での事前予約制による閲覧サービスの試行を開始した。</p>																																										
<p>6. 交流:歴史と文化の<展開> (1) 北京首都博物館・ソウル歴史博物館・瀋陽故宮博物館と、国際シンポジウム、学芸員の相互派遣、交流展等の国際交流を引き続き促進する。 (2) 東京都の姉妹友好都市をはじめ、世界の主要都市に所在する博物館において交流展を開催する等、更なる交流を推進する。 また、国際博物館会議を国際交流促進の場として捉え積極的に活用し、江戸東京博物館のプレゼンスを向上させていく。 (3) 両国・深川地域の文化施設、区、関連機関等との連携を強化し、地域の活性化や各施設の回遊性を高める取り組みを行う。</p>	<p>6 交流:歴史と文化の<展開> ●都民はもとより世界各地の人びとの注目を集めるべく、江戸東京博物館が持つ豊富な情報を広く深く発信する。 ●江戸東京博物館を、両国→墨田→東京→日本の文化発信の拠点としてさらに定着させる。 ●アジアや欧米の主要都市の博物館・美術館との文化交流、人的交流、展覧会をはじめ、さまざまな事業の実施をとおして促進する。</p>	<p>●ソウル歴史博物館で「都市博物館と未来戦略」をテーマとして9月5日に開催された、19回目となる日中韓3カ国4館の国際シンポジウムに副館長と専門調査員が参加し発表を行った。 ●ブラハで8月に開催された第26回「ICOM」(国際博物館会議)にリモートで参加した。 ●当館ならびに国立歴史民俗博物館が事務局館を務める「全国歴史民俗系博物館協議会」(歴民協)の総会を7月に書面にて開催した。川崎市市民文化局からの依頼により、川崎市市民ミュージアム被災収蔵品レスキュー支援の呼びかけを歴民協事務局から加盟館に行うとともに、連絡調整を行った。</p>																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H31年度実績値</th> <th>R2年度実績値</th> <th>R3年度実績値</th> <th>R4年度基準値</th> <th>R4年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観覧者数(人)</td> <td>1,132,272</td> <td>376,009</td> <td>420,254</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">参考目標値</td> </tr> <tr> <td>自主事業等参加者数(人)</td> <td>84,437</td> <td>25,541</td> <td>37,324</td> <td></td> <td>97,174</td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align: center;">参考目標値</td> </tr> <tr> <td>デジタルアーカイブス(公開資料画像数)</td> <td>29,090</td> <td>51,745</td> <td>15,783</td> <td></td> <td>11,210</td> </tr> <tr> <td>ホームページアクセス件数</td> <td>7,303,328</td> <td>5,069,646</td> <td>6,077,768</td> <td></td> <td>1,469,111</td> </tr> </tbody> </table> <p>※R4年度基準値は、提案書の基準値</p>		H31年度実績値	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度基準値	R4年度実績値	観覧者数(人)	1,132,272	376,009	420,254			参考目標値						自主事業等参加者数(人)	84,437	25,541	37,324		97,174	参考目標値						デジタルアーカイブス(公開資料画像数)	29,090	51,745	15,783		11,210	ホームページアクセス件数	7,303,328	5,069,646	6,077,768		1,469,111	<p>7 研究:歴史と文化の<究明> ●「えどはくカルチャー」の実施や紀要、史料叢書などの刊行物とおして、調査研究の成果を広く都民に還元する。江戸東京の歴史と文化の独自性を比較・検討するため、国内外の博物館等と連携し調査研究を行う。 ●大規模改修工事の準備のため、外部倉庫への図書資料の移送を着実に実施するとともに、リニューアル準備室での開室ならびに閲覧サービスの準備を行い、都民サービスの継続を図る。</p>	<p>●館員の研究活動の成果を『紀要』『史料叢書』『調査報告書』(英語版)の刊行物や「えどはくカルチャー」などに反映させるとともに、館外の研究者と連携した調査研究も行き、江戸東京に関する研究センターとしての学術的役割を果たした。 ●外部倉庫への図書資料の移送を計画通りに実施し、リニューアル準備室での事前予約制による閲覧サービスの試行を開始した。カルチャーのアンケートは、満足度94%と非常に高い結果であった。</p>
	H31年度実績値	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度基準値	R4年度実績値																																							
観覧者数(人)	1,132,272	376,009	420,254																																									
参考目標値																																												
自主事業等参加者数(人)	84,437	25,541	37,324		97,174																																							
参考目標値																																												
デジタルアーカイブス(公開資料画像数)	29,090	51,745	15,783		11,210																																							
ホームページアクセス件数	7,303,328	5,069,646	6,077,768		1,469,111																																							
<p>8 交流:歴史と文化の<展開> ●都民はもとより世界各地の人びとの注目を集めるべく、江戸東京博物館が持つ豊富な情報を広く深く発信する。 ●江戸東京博物館を、両国→墨田→東京→日本の文化発信の拠点としてさらに定着させる。 ●アジアや欧米の主要都市の博物館・美術館との文化交流、人的交流、展覧会をはじめ、さまざまな事業の実施をとおして促進する。</p>	<p>8 国際的なプレゼンスの向上(海外の研究者や研究機関との研究交流件数)</p>	<p>海外の14研究機関と研究成果物である『紀要』等の相互交換を行い、研究情報収集と発信を行った。機関リポジトリを活用して『紀要』等を公開、発信し、国内外からのアクセスを可能とした。</p>																																										
総合的な所見(自己評価の総評)																																												
<p>令和4年度から7年度中(予定)までの長期休館に入り、展示資料搬出や大型模型の解体作業、リニューアル準備室への移転など本格工事の準備を計画的に進めた。この間も、海外での国際交流展、たてももの園や東京都美術館を会場とした「えどはくカルチャー」、ソウル国際シンポジウム、地元墨田区や江東区の文化施設で伝統芸能公演事業、紀要・「江戸博NEWS」の刊行等、各種事業を継続。また、工事に伴う搬出の様子をSNSに掲載するなど、休館中においても江戸博の活動を発信しプレゼンスを維持した。収蔵資料デジタル化やスマホアプリ「ハイパー江戸博」の開発継続、新規事業「えどはく移動博物館」の開始や様々な調査活動も実施し、リニューアル後の新生江戸博へ向けた準備を着実に進めた。本館施設を利用できないという特殊な環境の中、職員全員がリニューアル・オープン後はこれまで以上の多くのお客様に会場にきたいという気持ちを持って、創意工夫しながら業務に取り組んできた。</p>																																												

外部評価 評定結果	総合的な意見(総評)
<p>A</p> <p>A: 目標を十分に達成し、成果を上げている B: 目標を概ね達成している C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である</p>	<p>大量の収蔵資料の撤去・移動、外部での保管、保存環境の維持等、困難な作業を緻密な計画と組織全体の連携によって、事故なく安全に遂行しつつあることは高く評価できる。その一方で、質の高い海外展示の実現や資料情報のデジタル化、「ハイパー江戸博」等のデジタルコンテンツの作成・情報発信、ワークショップなど、十分すぎる活動をおこなっている。他館ではなかなか行えていない紀要や叢書の英語版の刊行は注目される。上記のほか、博物館の根幹的機能としてのコレクション・調査研究の充実させつつ、さらに東京都の「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」への対応等、今後の博物館に求められる課題に積極的に挑戦し、博物館の社会的役割の維持・発展に大きな成果を挙げることができている点も高く評したい。また、リニューアルに向けて、各部署が新たな改善案を策定し、実施に向けた準備を行っていることも評価できる。施設のリニューアルに向かう特異な状況において、着実な事業の遂行と新たなチャレンジを両立させ成果を上げることができている背景には、財団との連携による中長期的目標の設定(ガバナンス)、設定された目標のしっかりとした共有と実施組織の構築(マネジメント)、それぞれの職員の役割を理解した実務の遂行(オペレーション)が、しっかりと機能している証であり、江戸博のこれまでの取組みの蓄積の成果といえよう。デジタルの活用等コロナ禍における工夫は一過性のものとせず、今後の運営に積極的に取り入れるとともに、休館中の事業・運営の成果がリニューアルオープン後の江戸東京博物館の事業・運営に反映されるように期待している。</p>

基本方針	令和4年度達成目標	成果と課題(評価指標の結果も含めた成果、分析、評価、課題、対応)																																																
<p>「指定管理提案書」に掲げた「6つの事業」に基づき、江戸東京博物館および江戸東京たてももの園の基本方針を以下のとおりとする。</p> <p>1. 資料:歴史と文化の(継承) (1) 61万点の「江戸博コレクション」を都民のかけがえのない文化遺産として、未来の都民へと継承すべく大切に保管する。 (2) 東京2020大会に関わる資料を積極的に収集し、その「レガシー」としてアーカイブ化を促進する。 (3)大規模改修について、収蔵品の計画的な搬出等着実に準備を進める。</p>	<p>資料:歴史と文化の(継承) ●30棟の復元建造物に対し、長期保全計画に則り修繕を実施する。また、緊急修繕工事や日常の軽微な補修等を確実に遂行し、来園者の安全確保と文化財の保存管理を図る。 ●旧武蔵野郷土館所蔵資料に関し、適切な保存管理を継続する。また、「江戸博コレクション」の一部として、デジタルアーカイブスを推進する。 ●虫歯害、獣害などから復元建造物や収蔵資料を保護するための対策を行う。</p> <p>評価指標 長期修繕計画に基づく修繕の実施状況</p>	<p>●復元建造物の長期保全計画による修繕工事を実施するとともに、部分劣化がみられた21棟の改修工事を行った。引き続き計画の確実な遂行とメンテナンスを行っていく。 ●国指定重要文化財である土製耳飾(下布田遺跡出土)をはじめとする旧郷土館資料の貸出依頼に協力し、公式HPの建造物紹介ページに東京都立博物館・美術館の横断検索をリンクし、コレクションの価値を多角的に発信した。今後も発信力強化に努めていく。 ●総合的有害生物管理(IP.M)の手法に則り、適切な資料管理を施した。引き続き対策を施していく。</p> <p>長期保全計画による復元建造物4棟の修繕</p>																																																
<p>2. 展示:歴史と文化の(発信) (1) 常設展示を中心として、豊富な実物資料や精巧な複製・模型を活用し、またICT技術を駆使した多面的な展示解説などによって様々な層に対し、江戸東京の歴史と文化の多彩な魅力を発信する。 (2) 特別展は、江戸東京という都市史を主題とした当館の固有性に基づき、質が高く魅力にあふれ、オリジナリティあふれる企画を開催する。</p>	<p>展示:歴史と文化の(発信) ●復元建造物の展示では、季節感の演出など体感性の向上に努める。また、ホームページやツイッターなどのSNSを活用した情報発信を推進する。 ●休館中の本館に代わり、江戸東京の歴史と文化の発信と継承に資する特別展示を開催する。 ●情景再現事業は、新型コロナウイルスの感染状況を勘案しながら、建造物の構造や機能を体感できるような内容で実施する。</p> <p>評価指標 令和4年度観覧者数</p>	<p>●引き続き復元建造物内にて季節感の演出を行い、SNS等で発信した。また、演示品の交換、清掃を行い、展示の品質保持に努めた。 ●「江戸東京博物館コレクション」展を実施し、江戸東京の歴史と文化を発信できた。また「日本のタイル100年展」では、建材であるタイルの歴史を通じ、日本文化を展覧することができた。今後も江戸東京の歴史と文化、建築にかかわる展示を推進していく。 ●今年度は予定していた5回の情景再現事業を実施できた。感染症拡大防止のため、接触を伴う事業は減らし鑑賞中心としたが、お客様から好評の声をいただくことができた。</p> <p>214,083人(開園日数311日間)</p>																																																
<p>3. 教育:歴史と文化の(学舎) これまでの教育普及事業を発展させていくとともに、子供・高齢者・外国人・障害者と対象を絞り、「少子高齢化」や「成熟社会」の到来など、時代の要請に応じた新たな教育普及プログラムを開発のうえ実践する。</p> <p>4. 運営:歴史と文化の(拠点) 「3S方針」(Safety:安全・安心、Service:おもてなし、Sense of Wonder:感動する博物館)を堅持する。とりわけ、災害やテロ対策をはじめとする「危機管理」については、最優先の課題として全館を挙げて取り組む。</p>	<p>教育普及:歴史と文化の(学舎) ●園の代表的な教育普及事業である「昔くらし体験」を確実に遂行すると共に、これを外国人、障害者、家族・小グループ等の来園者属性に合わせアレンジした事業の定着を図る。そのための環境整備を検討する。 ●ホームページ上に様々な学齢に応じた学習プログラムを掲載、オンライン事業を展開する。 ●高齢化や共生社会などの社会課題の解決に貢献する「クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー」に園の特性を活かしながら取組む</p> <p>評価指標 教育普及事業の参加者数</p>	<p>●「昔暮らし体験」事業において、従来実施してきた茅葺農家における囲炉裏や火鉢の体験に、ダイヤル式電話の通話体験など、より近い過去の生活体験を付加し、深い学びにつなげることができた。今後もプログラムの充実を図っていく。 ●ホームページ上の「えどまる広場」にて引き続き各種コンテンツの充実を図った。 ●高齢者に向けた回想法のプログラムや盲学校での出張ワークショップを行い好評を得た。参加者の感想や意見を容れながら充実を図っていく。</p> <p>昔くらし体験:2,212名 職場体験:29名</p>																																																
<p>5. 研究:歴史と文化の(究明) 江戸東京学の研究センターとして、「江戸東京の歴史と文化」をテーマとする調査研究を促進し、その成果を展示をはじめ、さまざまな事業に反映させ都民へ還元する。</p>	<p>運営:歴史と文化の(拠点) ●すべての事業において、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための必要な手段を確実に講じる。 ●「来園者」「園スタッフ」「博物館資料」の安全確保を第一に、「危機管理」を最優先の課題として取り組む。 ●ショップやレストランをはじめ、あらゆるミュージアムシーンにおいて、来園者の心に残るような行き届いたサービスを提供する。</p> <p>評価指標 顧客満足度</p>	<p>●感染症対策を最重要課題とし、社会状況に応じ適宜最適な対策を講じて、流行拡大防止と来園者サービスの両立を図った。今後も同様の対応を継続していく。 ●施設の特性である害虫、害鳥、害獣等、自然由来のリスクをモニタリングし危機の回避を図った。このほかの危機に対しても各種対応により、安全の確保が図られた。 ●感染拡大対策を講じながらも、テナントの努力によってサービスの維持が図られた。</p> <p>総合満足度:99.2%(満足83.1%、どちらかといえば満足16.1%)</p>																																																
<p>6. 交流:歴史と文化の(展開) (1) 北京首都博物館・ソウル歴史博物館・瀋陽故宮博物館と、国際シンポジウム、学芸員の相互派遣、交流展等の国際交流を引き続き促進する。 (2) 東京都の姉妹友好都市をはじめ、世界の主要都市に所在する博物館において交流展を開催する等、更なる交流を推進する。 また、国際博物館会議を国際交流促進の場として積極的に活用し、江戸東京博物館のプレゼンスを向上させていく。 (3) 多摩地域の文化施設、関連機関などとの連携を強化し、地域の活性化や各施設の回遊性を高める取り組みを行う。</p>	<p>研究:歴史と文化の(究明) ●復元建造物の展示や解説を充実させるとともに、建築の専門博物館にふさわしい展覧会などを開催する。 ●旧武蔵野郷土館資料を中心に、多摩地域の文化資源の調査研究を進める。 ●博物館事業のデジタル化に係る調査研究を進める。</p> <p>評価指標 研究成果の公開</p>	<p>●「360度パノラマビュー」で未公開となっていた、丸二商店、都電内部、園内通路部分等の公開を行った。また、藤森館長の監修による「日本のタイル100年」展を専門の2施設と共同企画のうえ開催し、建築の専門博物館としての存在感発揮に努めた。 ●昨年度から継続して実施した「縄文2020」展で、旧武蔵野郷土館資料を活用した。このほか資料のデジタル化をのための基礎調査を実施した。今後も同様の取り組みを継続したい。</p> <p>特別展図録「日本のタイル100年」の一般書籍化</p>																																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H31年度実績値</th> <th>R2年度実績値</th> <th>R3年度実績値</th> <th>R4年度基準値</th> <th>R4年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観覧者数(人)</td> <td>229,663</td> <td>100,771</td> <td>116,052</td> <td><250,000</td> <td>214,083</td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align:center">参考目標値 200,000</td> </tr> <tr> <td>自主事業等の参加者数(人)</td> <td>5,455</td> <td>0</td> <td>0</td> <td></td> <td>6,346</td> </tr> <tr> <td colspan="6" style="text-align:center">参考目標値 3,000</td> </tr> <tr> <td>HPアクセス件数</td> <td>8,844,216</td> <td>5,445,045</td> <td>7,280,091</td> <td></td> <td>7,870,777</td> </tr> <tr> <td>情景再現事業の入園者数・参加者数</td> <td>64,987</td> <td>18,945</td> <td>6,529</td> <td></td> <td>60,880</td> </tr> <tr> <td>昔暮らし体験参加者数(人)</td> <td>2,985</td> <td>645</td> <td>505</td> <td></td> <td>2,212</td> </tr> </tbody> </table> <p>※R4年度基準値は、提案書の基準値</p>		H31年度実績値	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度基準値	R4年度実績値	観覧者数(人)	229,663	100,771	116,052	<250,000	214,083	参考目標値 200,000						自主事業等の参加者数(人)	5,455	0	0		6,346	参考目標値 3,000						HPアクセス件数	8,844,216	5,445,045	7,280,091		7,870,777	情景再現事業の入園者数・参加者数	64,987	18,945	6,529		60,880	昔暮らし体験参加者数(人)	2,985	645	505		2,212	<p>交流:歴史と文化の(展開) ●小金井市をはじめとする関連諸団体と連携し、事業の実施及び広報の相互協力により、発信力の強化を図る。 ●多摩地域唯一の都立文化施設として、地域の博物館をはじめ広く内外の野外博物館と連携し、地域の活性化に寄与する。 ●コロナ禍の状況を鑑み、地域の連携、活性化に取り組む。</p> <p>評価指標 地域等との交流実績</p>	<p>●小金井市官公署等連絡協議会に参画するとともに、同会会員の市商工会、観光街おこし協会、消防署や公園サービスセンター、JRの主催事業等に協力し連携を深め、これを通じた地域連携、活性化に貢献した。 ●東京都三多摩公立博物館協議会や全国文化財集落施設協議会での活動により、地域博物館、専門博物館として一定の役割を果たすことができた。 地域関係団体連絡会等の参加:3回、全国文化財集落施設協議会会長館として総会実施</p>
	H31年度実績値	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度基準値	R4年度実績値																																													
観覧者数(人)	229,663	100,771	116,052	<250,000	214,083																																													
参考目標値 200,000																																																		
自主事業等の参加者数(人)	5,455	0	0		6,346																																													
参考目標値 3,000																																																		
HPアクセス件数	8,844,216	5,445,045	7,280,091		7,870,777																																													
情景再現事業の入園者数・参加者数	64,987	18,945	6,529		60,880																																													
昔暮らし体験参加者数(人)	2,985	645	505		2,212																																													

総合的な所見(自己評価の総評)

令和4年度は、4年ぶりに年間を通じて通常開園することができ、特別展示や情景再現事業といった主要な事業を計画通り実施することができた。感染症の流行が落ち着くなか、インバウンドを含む来園者が復調し、目標(参考目標値)を上回る人数の来園を得ることができた。顧客満足度は肯定的評価が99.2パーセントにのぼった。余暇行動が回復する中、感染症対策が十分な野外施設であることが安心感につながったためだと考える。

各種事業について、復元建造物をはじめとする収蔵資料の適切な保存管理を行った。これらを用い臨場感ある展示を継続するとともに、「江戸東京博物館コレクション」展で休館中の本館事業を継承し、「日本のタイル100年」展で、専門博物館としての役割を果たした。また、教育普及事業では、学校団体向け事業で新機軸を出すとともに、高齢者、視覚障害者向け事業の実施や教材の開発を進め、活動休止中のボランティアについては、再開までの計画を共有するなどして関係の継続に努めた。一方、園の運営に際して、委託業者を含めた園全体で来園者と建造物の安全と、サービスの維持を図った。そして、情報公開と特別展の企画を通じ専門性の高い知見の提示と情報発信が行えた。近隣や縁縁施設との交流も再開でき、多摩地域唯一の都立文化施設として、地域貢献に参画するとともに、専門博物館同士の情報交換を行うことができた。

総じて令和4年度は、来園者数に見られるように、コロナ禍からの回復への道程を歩んだ一年であった。コロナ禍を通じて獲得した知見を保ちながら、休止事業の再開とそれらの発展を目指していきたい。

外部評価 評定結果

総合的な意見(総評)

<p>A</p> <p>A: 目標を十分に達成し、成果を上げている B: 目標を概ね達成している C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である</p>	<p>コロナ禍が終息しつつある状況で、それ以前と同程度の入館者数に回復し、まずは順調と言える状況であったと言える。しかし、まだコロナ禍が完全に収束したわけではないから、もし感染者が増加した場合には、以前の経験をもとにして、柔軟な対応が求められるだろう。たてももの園のもっとも基本的な要件は、所持する建造物の健全な維持と、所蔵資料の安全な保管であるが、その双方がコロナ禍においても実現しているので、基本的な事業は良好な状況で継続されていると言える。今後は、完全な回復ではなくて、必要の薄い事業をカットして、さらに必要とする事業へと移行してゆくことが求められるだろう。コロナ禍の経験で、そのようなことが見えたのではないかと想像している。今後も、たてももの園に期待される役割を継続的に果たしていけることを切に願っている。</p>
--	---

令和4年度目標達成シート

【東京都写真美術館】

基本方針						令和4年度達成目標		成果と課題(評価指標の結果も含めた成果、分析、評価、課題、対応)																																																			
<p>東京都写真美術館は、日本で唯一の写真と映像を専門とする総合美術館として、写真・映像に関する文化の振興に寄与するため、平成7年1月に恵比寿ガーデンプレイスに開館致しました。</p> <p>以降、当財団は、世界にも数少ない写真・映像の総合美術館の運営を担う団体として、「写真・映像とは何か」という根本的な問いに答える展覧会プログラムを組み立て、記録としての写真・映像や、芸術としての写真・映像、報道としての写真・映像など、写真・映像が持つ多様な性格や表現により、如何に人々に豊かさや潤いを与えていけるかを追求してまいりました。</p> <p>今後も、写真と映像のセンター的役割を担う美術館として「存在感」を高めていくことを基本コンセプトに、ホスピタリティーの高い館運営を行ってまいります。</p> <p>以下は、基本コンセプトを支える5つの美術館像と、当財団として取り組む重点目標であり、写真美術館はこれらを実現するため、質の高い展覧会をもとより、専門性に裏打ちされた多様な事業を展開することにより、東京の代表的文化施設の一つとして貢献し、その存在感を国内外に示してまいります。</p> <p>〈基本コンセプト〉 我が国唯一の写真・映像の総合美術館として、センター的役割を担う「存在感のある美術館」を目指します。</p> <p>〈5つの美術館像〉 ① 質の高い写真・映像文化と出会う美術館 ② 写真・映像文化の新たな創造を支援する美術館 ③ 過去から現在に至る写真・映像文化を未来に継承する美術館 ④ 写真・映像文化の拠点として貢献する美術館 ⑤ 開かれた美術館</p> <p>館の運営に当たっては、館の基本コンセプトである「存在感のある美術館」とこれを支える5つの美術館像を目指すとともに、財団総体で取り組む3つの重点目標を達成するため、以下の目標を設定し、毎年、進捗状況を管理しながら事業を進めてまいります。</p> <p>とりわけ、写真・映像に係る技術の進展や、それに伴う社会生活や価値観の変化、新たな表現など、時代の動向を具に捉えながら事業展開に努めます。また、国内外に写真・映像の館の存在感を示すため、写真・映像を専門とする総合美術館としてこれまで培った専門性を発揮し、質を重視した展覧会を実施するとともに、保有する国内外の美術館や国際交流基金等のネットワークを活かした共同企画、SNS等の効果的な情報ツールを積極的に活用した戦略的広報を推進してまいります。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H31年度実績値</th> <th>R2年度実績値</th> <th>R3年度実績値</th> <th>R4年度基準値</th> <th>R4年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観覧者数(人)</td> <td>360,607</td> <td>158,338</td> <td>209,004</td> <td><380,000></td> <td>318,262</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">参考目標値</td> <td style="text-align: center;">228,000</td> </tr> <tr> <td>自主事業入場者数(人)</td> <td>39,431</td> <td>4,696</td> <td>17,712</td> <td></td> <td>26,137</td> </tr> <tr> <td colspan="5" style="text-align: center;">参考目標値</td> <td style="text-align: center;">36,000</td> </tr> <tr> <td>図書室利用者数(人)</td> <td>25,475</td> <td>1,966</td> <td>10,268</td> <td></td> <td>20,739</td> </tr> <tr> <td>支援会員法人数(法人)</td> <td>244</td> <td>230</td> <td>222</td> <td></td> <td>221</td> </tr> <tr> <td>付帯事業収入(千円)</td> <td>6,986</td> <td>5,584</td> <td>4,207</td> <td></td> <td>5,898</td> </tr> </tbody> </table> <p>※R4年度基準値は、提案書の基準値</p>							H31年度実績値	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度基準値	R4年度実績値	観覧者数(人)	360,607	158,338	209,004	<380,000>	318,262	参考目標値					228,000	自主事業入場者数(人)	39,431	4,696	17,712		26,137	参考目標値					36,000	図書室利用者数(人)	25,475	1,966	10,268		20,739	支援会員法人数(法人)	244	230	222		221	付帯事業収入(千円)	6,986	5,584	4,207		5,898	『質の高さに磨きをかけた展覧会の開催』	1	国際動向や社会との関連等を踏まえた専門的調査研究に基づき、収蔵コレクションの有効活用を図りながら、質が高く、来館者それぞれに満足いただける展覧会を開催致します。	評価指標	展覧会満足度	○コレクションの活用と自主企画展・誘致展を組み合わせながら、18本の展覧会を開催した。重点収集作家個展や希少価値の高い初期写真展、旬のミドルキャリアの作家個展など、日頃の調査研究に基づく質の高い展覧会を開催し、令和4年度も引き続き自宅や館外からでも写真・映像文化を楽しめるよう、出品作家による解説や対談、展示風景紹介など展覧会と連動した様々なオンラインコンテンツを発信し、鑑賞機会の創出を行った。
							H31年度実績値	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度基準値	R4年度実績値																																																
						観覧者数(人)	360,607	158,338	209,004	<380,000>	318,262																																																
						参考目標値					228,000																																																
						自主事業入場者数(人)	39,431	4,696	17,712		26,137																																																
参考目標値					36,000																																																						
図書室利用者数(人)	25,475	1,966	10,268		20,739																																																						
支援会員法人数(法人)	244	230	222		221																																																						
付帯事業収入(千円)	6,986	5,584	4,207		5,898																																																						
『将来性のある作家の発掘と創造活動の支援』						2	新進作家に対する作品発表の提供により、登竜門や跳躍台の役割を果たすとともに、作品鑑賞による刺激体験を通じて、作家や鑑賞者の文化創造活動を促進してまいります。	評価指標	新進作家展に登用した作家の活躍(受賞件数、個展の開催件数、作品集の制作件数など)	○日本の新進作家展、恵比寿映像祭などを通じて、写真・映像表現における新進作家の作品を紹介し、関連事業への出講等により作家・作品と来館者を結ぶ取り組みにつとめ、写真美術館発のアーティストの発掘、作品の収集を行った。 ○恵比寿映像祭の新規事業「コミッション・プロジェクト」で日本で活躍する新進アーティストを選出し、制作委嘱事業を実施した。																																																	
						3	『写真・映像文化の礎となる収蔵コレクションの充実・発信』	3	貴重な作品を的確に収集・保存するとともに、展覧会を通じて、文化の担い手である子供や若者に届くよう、積極的に発信いたします。また、ICTなど最先端技術を積極的に活用し、当館コレクションに加え、江戸東京博物館、現代美術館のコレクションを併せた「東京都コレクション」を国内外に発信してまいります。	評価指標	収蔵品の活用件数、デジタルアーカイブのアクセス件数	○「日本の新進作家展vol.19」への出品が契機となり、令和4年度京都市芸術新人賞を受賞(澤田華)。○新進作家作品の収蔵(5作家19点)																																															
『国内外の写真・映像に関する美術館等との連携』						4	蓄積した国内外のネットワークをより一層強固にしていくとともに、保有する収蔵コレクションや高い専門性を活用して、事業連携を促進するなど、国内の写真・映像文化の振興に貢献してまいります。	評価指標	共同企画や巡回展の件数、国内外の専門的会議への参画などの件数	○作品研究が国内外で進み、評価や関心が高まる中、「日本の前衛写真展」で注目の高い前衛作品を当館のコレクションを中心に紹介し、本展が契機となり国内各所から同様の企画への打診、共同研究が進んだ(神奈川県立美術館、三重県立美術館、板橋美術館、千葉市美術館他)。○当館で開催した自主企画展の巡回を実施した。																																																	
						5	『障害者や子供など多様な来館者に対応した事業の推進』	5	障害者や子供、高齢者、さらには子育て世代 などにも対応した鑑賞の機会や参加体験型事業等を、地域のボランティアやNPO、教育機関等と連携しながら事業展開することにより、社会課題の解決に貢献するとともに、芸術文化の支え手の裾野を拡げてまいります。	評価指標	ワークショップ実施件数、参加人数、参加者満足度、ボランティア活動参加人数 地域福祉事業等、NPO・教育機関等との連携件数	○巡回展「嶋田忠 野生の瞬間」秋田市千秋美術館、「白川義員 天地創造」愛媛県立美術館 ○国際的に活躍するコミッション・プロジェクトの審査委員をパネリストに迎え、メディアアートを考察する国際シンポジウムを開催した																																															
『基幹的事业である展示事業等の観覧者数の向上』						6	展示事業は、作品収集・保存、調査研究、教育普及事業など、館の活動総体が収斂された美術館の基幹的事业であり、都民の期待が最も高い事業です。 また当館ならではの施設として美術館内の上映ホールを有しており、希少性が高く芸術的な名画の上映事業を実施しております。 基幹的事业であり主要施設を活用した、展示事業及び上映事業の年間観覧者数を数値目標とし、この達成に向けて取組を推進してまいります。	評価指標	年間観覧者数	○昨年度はコロナの影響により展覧会観覧者数、利用者数は209,004人ととどまったが、日時指定予約の推奨や感染症拡大防止に努めつつも、上質な展覧会や上映に加え、館内外のイベント開催やSNSを活用した広報など、多角的なアプローチで事業を展開したことにより、令和4年度は昨年度比152%となる318,262人の来館者数があった。 ○図書室には、感染症対策には留意しながら、事前予約制を終了し、図書、雑誌を通常通り配架し、利用者の利便性の向上に努めた。 ○支援会員向けに特別内覧会を実施し、会員相互の交流、館事業への理解促進につとめた。また、謝恩報告会を開催し、合わせて映画上映会を実施した。																																																	
						参考目標値:228,000人 実績:318,262人(140%) 【内訳】展覧会301,971人 上映事業等 16,291人																																																					

総合的な所見(自己評価の総評)

【質の高い展覧会事業の実施】 社会との関連性や国際動向をふまえ、「メント・モリ(死を想え)」をテーマに困難を生き抜く想像力を刺激する写真展や、重点収集作家個展、調査研究に立脚した初期写真や日本の前衛写真など、多彩な切り口で質の高い展覧会を開催し、多くの来場者に感動を与えた。「コミッション・プロジェクト」は映像祭の成果として海外発信の機会促進、ネットワーク作りに寄与した。

【社会包摂事業の拡充】 障害の有無にかかわらず、あらゆる人々が参加できるプログラムをオンライン、リアルの双方を活用して実施した。令和4年度はより一層の社会包摂事業を拡充するため、シニア・子供の居場所づくり事業、手話ナビゲーターによる館内案内動画の作成など、新たな事業、リサーチに力を入れた。また、収蔵展、自主企画展において実施している「担当学芸員によるギャラリートーク」のうち、全ての展覧会で手話通訳付きギャラリートークを実施した。

【安定的な運営】 社会情勢が要因となり企業の収益が悪化する中、支援会員制度を維持し着実に運営していくための各種取組みや、補助金、協賛金等の外部資金を積極的に獲得し、収支のバランスの取れた運営ができた。上記1～6の目標に対して満足できる成果を上げることが出来たと考えるが、今後さらに充実させていきたい。

外部評価 評定結果

総括的な意見(総評)

A	<ul style="list-style-type: none"> ・大変質の高い企画展が開催され年間を通じた構成は日本の写真黎明期から20世紀の後半まで、ある程度の「収蔵品」の多様性を紹介できるものとなっている。 ・毎年企画されている「日本の新進作家」シリーズで、今回も当館の展示が契機となった芸術賞の受賞があった。 ・恵比寿映像祭は恒例イベントとしてまちのにぎわいづくりに多大な貢献をした。コミッション・プロジェクトは、今後の充実が期待されるよい取り組みだと思う。 ・収蔵品については収集方針に沿って、着実にかつ多様な種類の写真作品・映像作品の収集がなされている。 ・情報システムについては画像付情報が7000件以上追加された。この分野は時間と労力を要し、根気も必要だが、利便性だけでなく、海外での当館のプレゼンス向上にも繋がるため、さらに推進してほしい。 ・海外美術館との連携、キュレーター招聘など、日頃から培っている海外ネットワークが活用された。 ・教育普及事業では、様々な属性の人々が学ぶ機会を創出しており、新規事業として写真・映像に関心が高い中学生・高校生を対象とした平日放課後プログラム「TOP写真部」を開催した。 ・近隣の社会福祉施設や子ども食堂主宰のNPOとの連携で、放課後の居場所作りと教育・普及活動を組み合わせたプログラム、高齢者の予防介護のプログラムなど、社会課題の解決に直接コミットした活動が行われた。 ・来館者数が年間30万人を超え、集客の観点では堅調であった。コロナ前の水準に近づきつつあることは喜ばしい。
<p>A: 目標を十分に達成し、成果を上げている</p> <p>B: 目標を概ね達成している</p> <p>C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である</p>	

基本方針		令和4年度達成目標		成果と課題（評価指標の結果も含めた成果、分析、評価、課題、対応）	
<p>文化の創造と魅力あるメッセージの発信</p> <p>① 現代美術の国内外への発信</p> <p>② 現代美術の保存と継承 (コレクションの充実・保全・公開)</p> <p>③ 広範な関心への応答</p> <p>現代美術の普及と次世代の担い手を育む</p> <p>④ 優れた作品等の鑑賞機会の提供</p> <p>⑤ 現代美術の普及と子供達の育成</p> <p>⑥ 新進・若手作家をはじめとする文化の担い手への支援</p> <p>あらゆる鑑賞者に開かれた美術館の実現</p> <p>⑦ アクセシビリティの整備</p> <p>⑧ 地域連携の強化</p>		<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 調査研究/展示/教育普及等、貴重な美術資料を様々な形で提供するとともに、魅力溢れる最先端の表現を国内外へ広く発信する。 ■ 国内外の人々、特に次代の芸術文化の担い手である子供や青少年に、日本発の「現代」と「美術」の魅力をより積極的かつ効果的に発信する。 ■ 事業を通じて国内外のネットワークを拡大し、発信力の強化に取り組む。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 現代美術の幅広い表現を展覧会、教育普及、関連事業等を通じて国内外へ発信できた。 ■ ファッション、建築、デザインから歴史・社会的課題を掘り上げる表現まで、分野や領域を拡大する展覧会やプログラムを実施し、現代美術館の存在意義をアピールできた。 ■ 事業や調査研究を通じ、国際的な組織、作家、関係者等のネットワークを推進した。 	
		<p>評価指標</p> <p>年間観覧者数</p>		<p>年間観覧者数463,723人（コレクション展104,290人、企画展359,433人）</p>	
		<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 収蔵作品・資料等の充実・活用を通じて、「現代」と体系的な美術の歴史とを結びながら、新たな視点で日本の美術のコンテクストを形成する。 ■ 専門家との協働や最新の調査研究の成果に基づいた着実な管理（保存・修復・展示）によって、貴重な作品を未来へ伝える。 ■ コレクションの活用、他美術館・博物館への貸出協力を行うとともに、海外での東京都コレクション展の開催など財団他施設との連携で展開する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 都美術館時代からの収蔵の歴史を紐解くテーマや、ゆったりとした展示空間を活かした体感的な展示など、コレクションの魅力を発信するような展示を開催した。 ■ 専門家と協働しながら、計画的に大型彫刻を含め43点の修復を進めることができた。 ■ 国内外の美術館等へ30件・188点の作品貸出を実施した。 ■ コレクション検索サイトを公開し、画像とともに展示中や貸出中の作品情報を発信した。 	
		<p>評価指標</p> <p>コレクション（収蔵品）のデジタル撮影点数 / 新収蔵作品のデジタルデータの入力件数</p>		<p>収蔵作品のデジタル撮影 1662カット/新収蔵作品のデジタル入力 143件</p>	
		<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 現代社会の広範な関心に対応し、東京の社会課題に美術をとおして向き合う場となることを目指す。 ■ 最先端の情報の収集と堅実な調査・研究に基づいたプログラムの提供により、来館者に「知る喜び」を伝える。 ■ デザイン、ファッション、建築、音楽、映像、アニメーションなど、他ジャンルを幅広く取り上げることで多様な関心に応える。 ■ 上記事業全体をとおして、財団内連携によるクリエイティブ・ウェル事業に参画する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ MOTアニュアル展、ウェンデルン・ファン・オルデンボルフ展を通して、歴史背景や現代社会の課題等と向き合う展示を実施し考察の場を創出できた。 ■ 井上泰之展、吉阪隆正展では、豊富な資料を空間構成やデジタル技術等により魅力的に展示し、創造の持つ力を伝えた。 ■ アニュアル展、オルデンボルフ展で国内外の現代美術を紹介すると共に、井上展、吉阪展、ジャン・ブルーヴェ展、クリスチャン・ディオール展と、特撮、建築、デザイン、家具、ファッション等のラインナップで多様な関心に応えた。 	
		<p>評価指標</p> <p>クリエイティブ・ウェルの事業件数、参加者数</p>		<p>社会的課題に取り組んだ作家5名/展覧会2本 来場者48,339名/関連プログラム14本 参加者1568名</p>	
<p>4</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 先端的表現/展示手法による国内外の現代美術を紹介し、ファッション、映像等、様々なジャンルを幅広く取り上げることで新たな客層を獲得する。 ■ 収蔵作品、資料等の充実・活用を通じて、「現代」と体系的な美術の歴史とを結びながら、優れた鑑賞機会を提供する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ ブルーヴェ展、アニュアル展、オルデンボルフ展では、鑑賞者の50%以上を30代以下の若年層が占め、ディオール展ではチケットの供給が追いつかないほどの盛況ぶりまでファッションをきっかけに新たな客層を獲得した。 ■ 約5,700点の収蔵作品を中心に4期にわたり多様なテーマによりコレクション展を開催した。 			
<p>評価指標</p> <p>コレクション展示の出品・公開点数</p>		<p>コレクション展における収蔵作品公開 525点</p>			
<p>5</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 収蔵作家が現存する特性を生かし、体験型展示や分かりやすい解説を用いて、創造力・鑑賞力を高める教育普及活動を展開する。 ■ アーティストによるワークショップや新たな情報デバイスの活用など、様々な体験をとおして、現代美術の普及に取り組む。 ■ 学校との連携や高齢者対象、障害があっても参加することができるプログラムなど、様々な年齢や興味に応じたきめ細やかな事業を展開する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 現代作家によるワークショップや学校訪問、企画展関連トーク等を通じ、創造力・観察力の可能性を拡大する事業ができた。 ■ コロナ禍でも継続可能な事業実施方法や、教材貸しを通して、現代美術表現の享受を多角的に展開することができた。 			
<p>評価指標</p> <p>教育普及プログラムの参加者数及び満足度</p>		<p>教育普及プログラム参加者 5,843名 満足度98%</p>			
<p>6</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 才能ある芸術家の発掘・支援のため、新しい創造活動や作品発表の機会提供や作品の収蔵などを行う。 ■ 文化の担い手の裾野を広げる役割を果たすために、学校をはじめ、国内外機関、地域企業やNPOなど様々な人々とのネットワークを形成する。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ コレクション展においては、康夏奈（吉田夏奈）、鈴木ヒラク、百瀬文、潘逸舟等、近年に新規収蔵した若手作家の作品の紹介等を積極的に行った。 ■ 企画展においては、MOTアニュアル展等若手作家の創作発表の場を創出した。 ■ 「アーティストの一日学校訪問」等の事業を通じて、将来的な文化・芸術の担い手の裾野を広げ、多角的な視野へと導く事業を展開した。 			
<p>評価指標</p> <p>若手作家への支援数（作品公開・展示・収集等）</p>		<p>若手作家への支援 作品公開42点（38+4）/展覧会における作家13名（9+4）/収集15名（ユニット2組含む）・48点</p>			
<p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 設備面のみならず、手話通訳の導入や普及プログラムの提供などソフト面でのバリアフリーを促進する。 ■ 総合的な視点から、多言語化を含め、誰もが現代美術を享受できる場を作る。 ■ おむつ替えスペースの設置やベビーカーの無料貸出等、小さなお子様連れでも安心して美術館での鑑賞を楽しむことができる環境を整える。 ■ スマートフォンやタブレット端末を用いて、インターネット経由での展覧会の鑑賞の他、より現代美術に親しみやすい環境を整える。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 手話トークの実施や触察マップの制作等、幅広い来館者層が享受できる現代美術の場を創出できた。 ■ 展覧会出品作家インタビューをウェブ公開する等、企画理解促進と図った。 			
<p>評価指標</p> <p>バリアフリーに関する取り組みの件数 ・アンケート、満足度調査による満足度 ・未就学児の割合</p>		<p>手話通訳の導入3件、参加者数92名/触察マップ配布21部</p>			
<p>8</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 近隣施設や商店街等と連携し、地域における街づくりの核となることで、伝統と現代が共存・融合する都市・東京のイメージをアピールする。 ■ 地域との密なコミュニケーションを図り、誰もが文化に触れられ、参加できる親しみやすい施設づくりを目指す。 ■ 地域と連携した事業を積極的に実施し、地域経済の活性化と観光拠点としての役割を果たす。 		<ul style="list-style-type: none"> ■ 東京アートブックフェアでは「ネイバース」と称し、近隣のレンタサイクル、書店、カフェ等を紹介しながら幅広い連携を図った。 ■ 地域とのコミュニケーションとしては、木場公園での江東区民祭りへのブース出展のほか、木場公園「キラキラ☆木場パーク」への参加、地元商店街のかかしコンクール審査協力、三好4丁目町会祭への協力など円滑なコミュニケーションに努めた。 			
<p>評価指標</p> <p>地域連携活動の実践</p>					

	H31年度実績値	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度基準値	R4年度実績値
観覧者数(人)	528,178	437,375	437,908	<430,000	463,723
参考目標値					430,000
自主事業参加者数(人)	76,796	48,257	33,407		28,307
参考目標値					40,000
若手作家の支援(人)	30	11	10		13
協賛金の獲得金額(千円)	2,273	17,733	10,235		10,000
HPのアクセス件数	6,295,466	6,794,966	6,700,574		9,160,852
※R4年度基準値は、提案書の基準値					

総合的な所見(自己評価の総評)

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の影響がある中での運営となり、前年度に引き続き、感染症拡大のための措置を継続し、お客様が安心して来館できるよう、安全安心な運営に努めた。

展覧会事業では、5,700点もの豊富なコレクションを活用し、東京都美術館時代も含むコレクションの歴史を紐解き、制作年代順に展示する「コレクションを巻き戻す」展を実施した。また現代美術の多様な魅力を発信するため2つのテーマで展示を行う「被膜虚実/Breathingめぐる呼吸」展を行い、当館の多彩なコレクションを積極的に紹介した。

企画展では、ファッション(「クリスチャン・ディオール～夢のクチュリエ」展)、デザイン・建築(「ジャン・ブルーヴェ展～椅子から建築まで」展、「ひげから地球へ、パノラマ～吉阪隆正展」)、特撮(「生誕100年特撮美術監督 井上泰幸」展)など、東京都現代美術館ならではの多彩な展示を行う一方、社会的課題についての考察の場を創出する展示(「MOTアニュアル展」)、「ウェンデルン・ファン・オルデンボルフ展」)を行うなど、美術館に求められる多様なミッションに基づき、様々なお客様のニーズにお応えすることができた。

「TOKYO ART BOOK FAIR 2022」では新型コロナウイルスの影響で多数の入場者が制限される中、完全事前予約制を導入し2年ぶりにリアル開催を行い、多くのアートブックファンを迎えることができた。

美術図書室では、賑わう展覧会の関連展示を行い、来館者に当館資料の魅力や、教育普及事業においては、昨年度に引き続き、触察ツールの更なる開発を行うと共に、ギャラリートークでは無線ガイドシステムなどを活用し感染拡大防止に努めながらも、お客様とのコミュニケーションを図るなど、幅広い来館者に対応する場を提供することができた。

なお、これらの事業を支える広報部門では、多くの取材対応やきめ細かいSNS発信、来館促進イベントの開催等により、当館へのアプローチを、より身近にすることが出来たと考える。

コロナ禍の影響が残る中、コレクション展と企画展の合計観覧者数は当初目標を上回る実績をあげたことは、館の活動に対する高い評価の結果であると認識している。

今後は、アフターコロナに向け、東京都が策定した「東京文化戦略2030」等、東京の文化政策を着実に実施し、海外との連携も更に強化するとともに、首都東京を代表する美術館として、その目標達成に向け、一丸となり取り組んでいく。

外部評価 評定結果

総合的な意見(総評)

A	<p>○コロナ感染症の影響を受けながらも、その時々状況に適切に対応しながら、企画展やコレクション展の開催とその関連事業の実施、幅広い教育普及事業の展開や図書室の運営、またレストランやカフェをはじめとする来館者サービスや施設の管理など、全般にわたり着実かつ確かな成果をあげることができた。</p> <p>○コロナ禍においても、これだけ多くの観覧者数を得たことは高く評価されるとともに、美術館という場所が安全な場所であるとの認識の醸成にも、現代美術館が大きく貢献していると考えられる。</p> <p>○展覧会のプログラムはバランスよく、日本だけではなく国際的な基準で高いクオリティを保つと同時に、必ずしも(現代)美術のファンだけではない多くの人にアプローチできるよう、隣接領域(建築、ファッション、アニメ等)にも目配りの効いた構成となっている。</p> <p>○全国の美術館を牽引するリーディングミュージアムとしての立場から、新しい現代アートファンをどのように生み出していか、他館に先駆けた新たな取り組みやそれを支える経営基盤の充実にも果敢に挑戦してほしい。</p> <p>○そのためにも専門性の高い分野をはじめとして、その活動を支える組織体制の充実と人員の確保にも取り組むべきである。その際、学芸員等がスキルや知識を充電する時間の確保についても十分考慮すべきである。事業にも緩急をつけながら、来る30周年に備え、更にその次の事業展開を見据えて計画を立ててほしい。</p> <p>○今年度もコロナ感染症の影響が続く中での評価Aは、各部門のたゆまぬ努力が総合的に高い成果に結びついた証左であり、三段階評価の最上位のA評価としたが、指定管理評価制度と同様にS評価でも良い。</p>
<p>A: 目標を十分に達成し、成果を上げている</p> <p>B: 目標を概ね達成している</p> <p>C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である</p>	

基本方針	令和4年度達成目標	成果と課題(評価指標の結果も含めた成果、分析、評価、課題、対応)																																				
<p>東京都美術館は、展覧会を鑑賞する、子供たちが訪れる、芸術家の卵が初めて出品する、障害を持つ人が何のためらいもなく来館できる、すべての人に開かれた「アートへの入口」となることを目指します。</p> <p>新しい価値観に触れ、自己を見つめ、世界との絆が深まる「創造と共生の場＝アート・コミュニティ」を築き、「生きる糧としてのアート」と出会う場とします。そして、人々の「心のゆたかさの拠り所」となることを目指して活動していきます。</p> <p>来る開館100周年(2026年)を機に、芸術文化による社会包摂と心身の健康と幸福を目指し、新しい美術館モデルを切り拓いていきます。</p> <p>そのため、美術館の運営にあたって4つの役割を掲げます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「世界と日本の名品に出会える美術館」 2 「伝統を重視し、新しい息吹との融合を促す美術館」 3 「人々の交流の場となり、新しい価値観を生み出す美術館」 4 「芸術活動を活性化させ、鑑賞の体験を深める美術館」 <p>この基本方針のもとに4つの事業を展開します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 展覧会事業＝特別展や企画展など、見る喜び、知る楽しさを提供する。 ② 公募展事業＝公募団体やグループと連携し、つくる喜びを共有する。 ③ アート・コミュニケーション事業＝アート・コミュニティ形成による新たな可能性を探求する。 ④ アメニティ事業＝アートラウンジや美術情報室、ミュージアムショップ、レストラン等、訪れる楽しさを充実させる。 	<p>1 「アートへの入口」として「創造と共生の場」を形成する。 令和4年度は、感染症予防対策を適切にとりながら社会情勢に柔軟に対応しつつ、グローバルかつ計画的視点を持って事業を着実に実施していく。館活動全体で多言語対応、ダイバーシティ対応などホスピタリティの向上に努めるとともに多角的な広報運営を推進する。また、来館者の安全安心を最優先に万全の施設管理を行いつつ、訪れる楽しさを充実させる「アメニティ事業」を展開する。さらに、アート・コミュニケーション事業を中心に、ICTを活用した事業や連携、交流に努めるとともに、子供、青少年、高齢者、障害者、外国人等が主体的に美術館活動に参加できる活動の場を拡張し、ミッションの実現に向けた取組みを推進する。また、「新たな文化戦略」と連動した指定管理事業計画の一部見直しも着実に進める。</p> <p>評価指標 最先端技術を活用した発信…「ICTを活用したアート・コミュニティ形成に関わるアート・コミュニケーターの活動」「ICTを活用した国内外の文化施設、機関との連携と交流(オールジャパン戦略事業)」 間口を広げ、主体的に関わる仕組みづくりの見える化を進める…「とびらプロジェクト(アート・コミュニケーター)、Museum Start あいうえの事業(青少年)の有機的なつながりと成果が分かる報告を作成。</p> <p>2 「世界と日本の名品に出会える美術館である」 特別展では、前年度より引き続き「ドレスデン国立古典絵画館所蔵 フェルメールと17世紀オランダ絵画展」を、「スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」を春から夏にかけて開催し、ルネサンスから19世紀までの西洋絵画の優品を鑑賞していただく。同展及び芸術と力をテーマにした「ポストン美術館展 芸術×カ」、20世紀日本を代表する芸術家岡本太郎の回顧展「展覧会 岡本太郎」、そして19世紀ウィーンの世紀末画家「レオポルド美術館 エゴン・シーレ展 ウィーンが生んだ若き天才」では、感染症予防対策を万全にした上でより良い鑑賞環境の下、世界的名作を味わっていただく。また令和5年度以降の展覧会の準備を着実に進める。</p> <p>評価指標 年間特別展観覧者数(人)</p> <p>3 「新たな価値や可能性を見出す展覧会等を実現する」 企画展では、デンマークを代表する家具デザイナーに焦点をあてた「フィン・ユールとデンマークの椅子」展を夏から秋にかけて実施する。フィン・ユールの「彫刻のような椅子」のデザインと生涯の紹介を通して、アートとライフの深い関係に迫る。また、「コレクション展 源氏物語と江戸文化」では、東京都コレクションを積極的に活用し、都民に分かりやすく紹介する。</p> <p>評価指標 企画展とコレクション展の入場者数(人)</p> <p>4 「作品発表の場の提供と新たな創造性を共有する美術館である」 公募展事業では、学校教育展、公募団体展を滞りなく安全に実施する。また、令和6年度の単年度使用割当を円滑に決定する。公募展活性化事業では、「上野アーティストプロジェクト2022 美をつむぐ源氏物語-めぐり逢ひける えには深しな-」、「グループ展」を着実に実施するとともに、次年度以降の実施に向けた準備もしっかりと進める。</p> <p>評価指標 公募展示室使用割当稼働率(%)</p> <p>5 「アートを介して多様なコミュニティの形成を行い、社会課題の解決に取組む」 アート・コミュニケーション事業では「とびらプロジェクト」「Museum Start あいうえの」そして教育普及活動を着実に実施するとともに、令和3年度に開始した「エイジフレンドリー&ダイバーシティ事業」「オールジャパン戦略連携事業」を事業計画に沿って確実に推進する。前者では高齢者や障害者と文化施設をつなぐ仕組みづくりに向けて調査・研究を行い、プロトタイプとなるプログラムを実施する。後者ではICTを活用して国内外の連携機関と勉強会を開催し、社会課題に対応する先進的な事例の共有などを行う。</p> <p>評価指標 「クリエイティブ・ウェル・プロジェクト」に取り組む…「高齢者とその家族を対象にしたプログラムのプロトタイプ開発」、「初期の認知症高齢者を対象にした鑑賞プログラムの開催」</p> <p>6 「様々な主体とのネットワークを強化しながら上野地域の文化施設の中で中核的な役割を果たす」 上野周辺地域の文化および商業施設とのネットワークを強化することにより、地域の魅力を高めることを目指す。顕在化していない地域の様々な文化資源も含め、横断的にそれらをつなぐアート・コミュニケーション事業の実施や、地域連携による着実に積極的な広報活動を行う。</p> <p>評価指標 上野周辺地域の文化および商業施設との連携</p>	<p>令和4年度も引き続き、検温、手指消毒、日時指定制による人数制限などを実施し、COVID-19感染拡大防止対策を徹底しながら、安全第一に美術館の運営を行った。ウェブサイトと多数のフォロワーを有するSNSによる効果的な情報提供に努めるとともに、日々多様な来館者にそれぞれ親切丁寧に対応している。アメニティ事業では、ショップ、美術情報室、レストラン等の緊密な情報交換を行いながら、更なるホスピタリティの向上に努めた。特別展では、「スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」でヨーロッパ絵画の精華を紹介し、「ポストン美術館展 芸術×カ」展で権力と美術の関係性をテーマに多様なジャンルの名品を展示した。「展覧会 岡本太郎」では過去最大級の規模の回顧展を開催し、「レオポルド美術館 エゴン・シーレ展 ウィーンが生んだ若き天才」では、約30年ぶりに夭折の天才の画業を振り返り、好評を得た。企画展では、デンマークを代表する家具デザイナーに焦点をあてた「フィン・ユールとデンマークの椅子」展を夏から秋にかけて実施。6万5千人の入場者と7500部の図録販売を記録した。また「コレクション展 源氏物語と江戸文化」では、休館中の江戸東京博物館の所蔵品をお借りして江戸時代の源氏物語の受容と展開に焦点を当て、同時開催の「上野アーティストプロジェクト2022 美をつむぐ源氏物語-めぐり逢ひける えには深しな-」では、源氏物語をテーマとし、書画だけでなく、染色、ガラス工芸など多様なジャンルの作家がとらえた源氏物語の世界を紹介した。関連事業も積極的に実施し、出品作家によるトークイベントのほか、2019年度より継続して実施しているダンス・ウェルを3年ぶりに対面式で実施し好評を得た。また、「都美セレクション グループ展2022」では、現代美術の動向を反映する3つの企画を紹介した。アート・コミュニケーション事業では、引き続き「とびらプロジェクト」「Museum Start あいうえの」で、オンラインとリアルを組み合わせ活発な活動を続けた。「エイジフレンドリー&ダイバーシティ事業(Creative Ageing ずっとび)では、「あいうえの」と連動し高齢者とティーンズ(15～18歳)が対話を行うプログラム「みる旅:タイムワープいとかし」を東京芸術大学大学美術館で実施。また、認知症の高齢者とその家族とアート・コミュニケーターとが展示室で作品と一緒に鑑賞するプログラムを台東区の医療・福祉機関と連携し「フィン・ユールとデンマークの椅子」及び「展覧会 岡本太郎」で実施し高齢者の社会参加の機会とした。また、年度末には昨年と今年度の活動をまとめた報告書を刊行し、ウェブでも公開している。</p> <p>特別展では、「スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」でヨーロッパ絵画の精華を紹介し、「ポストン美術館展 芸術×カ」展で権力と美術の関係性をテーマに多様なジャンルの東西の名品を展示した。過去最大規模の回顧展となった「展覧会 岡本太郎」は、岡本芸術の「対極主義」を体感させるよう工夫した展示空間と図録が大変好評を得た(全国カタログ展銀賞受賞)。「レオポルド美術館 エゴン・シーレ展 ウィーンが生んだ若き天才」では、約30年ぶりに夭折の天才の画業を同時代の画家の作品とともに振り返った。ポストン展での入場者数は目標に届かなかったが、若者に認知度の高い声優を音声ガイドのナレーターに起用するなど、様々なPR活動が功を奏し、10～30代の来場者誘致(3割増)に成功した。年間では64万人3千人の入場者数に「世界と日本の名品」の鑑賞機会を提供することができた。令和6年度からの展覧会も着実に準備を進めている。</p> <p>企画展では、デンマークの家具デザイナーに焦点をあてた「フィン・ユールとデンマークの椅子」展を夏から秋にかけて実施した。本展では現代美術館と合同チラシを作成し、両館の強みを生かした広報展開を行い、多くの記事掲載と65,425人も動員につながった。また図録の表紙を6種とし、販売増に資した。「コレクション展 源氏物語と江戸文化」では、休館中の江戸東京博物館の所蔵品を中心に江戸時代の源氏物語の受容と展開をふりかえり25,371人の観覧者数を記録した。また江戸東京たても園とともにガイドブック「やさしい日本語」を制作するなど連携強化にもつなげられた。上記展覧会は、いずれも目標以上の入場者と満足度を達成し、大きな成果を得た。</p> <p>公募展事業の令和6年度の単年度使用割当は98.2%の割当となった。令和4年度開催の学校教育展・公募団体展の主催団体には、引き続き感染防止対策の協力を要請しながら安全な施設運営を実施した。「上野アーティストプロジェクト2022 美をつむぐ源氏物語-めぐり逢ひける えには深しな-」では、初めて書と美術の複合展示を源氏物語をテーマに企画して実施して好評を博した。また、「都美セレクション グループ展2022」では、現代美術の動向を反映する3つの企画を紹介した。</p> <p>アート・コミュニケーション事業では、「とびらプロジェクト」「Museum Start あいうえの」においては、オンラインとリアルを組み合わせ活発な活動を続けた。「オールジャパン戦略事業」ではアートを介してコミュニティを育む事業を推進する全国8つの拠点をつなぎ勉強会を進めるとともに、各地の実践を一同に紹介するオンラインレクチャーを実施した。「エイジフレンドリー&ダイバーシティ事業(Creative Ageing ずっとび)では、「あいうえの」と連動し高齢者とティーンズ(15～18歳)が対話を行うプログラム「みる旅:タイムワープいとかし」を東京芸術大学大学美術館で実施。また、認知症の高齢者とその家族とアート・コミュニケーターとが展示室で作品と一緒に鑑賞するプログラムを台東区の医療・福祉機関と連携し「フィン・ユールとデンマークの椅子」及び「展覧会 岡本太郎」で実施し高齢者の社会参加の機会とした。また、年度末には昨年と今年度の活動をまとめた報告書を刊行し、ウェブでも公開している。</p> <p>上野地域の連携では、「あいうえの」による文化施設の連携を継続し、広報面では各展覧会における近隣商業施設との様々なコラボレーションを継続して実施しており、特に、「ポストン美術館展」「フィン・ユール展」において近隣35店舗と展覧会オリジナルポスターを制作し地域の店舗等の発信力を活用した告知を行うなど、連携広報の取組みを積極的に進めた。COVID-19感染拡大により上野公園を訪れる人の数は減少していたが、今年度は次第に状況が回復し、外国人の数も増えて、「春・音楽祭」など施設の連携イベントもCOVID-19感染拡大前に戻りつつある。</p>																																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H31年度実績値</th> <th>R2年度実績値</th> <th>R3年度実績値</th> <th>R4年度基準値</th> <th>R4年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観覧者数(人)</td> <td>1,038,920</td> <td>136,913</td> <td>573,731</td> <td><850,000></td> <td>643,683</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>参考目標値 550,000</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>自主企画展観覧者数(人)</td> <td>69,250</td> <td>9,003</td> <td>34,286</td> <td></td> <td>88,761</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>参考目標値 48,800</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>公募展示室割当稼働率</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>97.8(割当時)</td> <td><100.0></td> <td>98.2(割当時)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※R4年度基準値は、提案書の基準値</p>		H31年度実績値	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度基準値	R4年度実績値	観覧者数(人)	1,038,920	136,913	573,731	<850,000>	643,683					参考目標値 550,000	—	自主企画展観覧者数(人)	69,250	9,003	34,286		88,761					参考目標値 48,800	—	公募展示室割当稼働率	100	100	97.8(割当時)	<100.0>	98.2(割当時)	<p>総合的な所見(自己評価の総評)</p>	<p>総合的な意見(総評)</p>
	H31年度実績値	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度基準値	R4年度実績値																																	
観覧者数(人)	1,038,920	136,913	573,731	<850,000>	643,683																																	
				参考目標値 550,000	—																																	
自主企画展観覧者数(人)	69,250	9,003	34,286		88,761																																	
				参考目標値 48,800	—																																	
公募展示室割当稼働率	100	100	97.8(割当時)	<100.0>	98.2(割当時)																																	
<p>外部評価 評定結果</p> <p>A</p> <p>A: 目標を十分に達成し、成果を上げている B: 目標を概ね達成している C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である</p>	<p>令和4年度も引き続き、検温、手指消毒、日時指定制による人数制限などを実施し、COVID-19感染拡大防止対策を徹底しながら、安全第一に美術館の運営を行った。ウェブサイトと多数のフォロワーを有するSNSによる効果的な情報提供に努めるとともに、日々多様な来館者にそれぞれ親切丁寧に対応している。アメニティ事業では、ショップ、美術情報室、レストラン等の緊密な情報交換を行いながら、更なるホスピタリティの向上に努めた。特別展では、「スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」でヨーロッパ絵画の精華を紹介し、「ポストン美術館展 芸術×カ」展で権力と美術の関係性をテーマに多様なジャンルの名品を展示した。「展覧会 岡本太郎」では過去最大級の規模の回顧展を開催し、「レオポルド美術館 エゴン・シーレ展 ウィーンが生んだ若き天才」では、約30年ぶりに夭折の天才の画業を振り返り、好評を得た。企画展では、デンマークを代表する家具デザイナーに焦点をあてた「フィン・ユールとデンマークの椅子」展を夏から秋にかけて実施。6万5千人の入場者と7500部の図録販売を記録した。また「コレクション展 源氏物語と江戸文化」では、休館中の江戸東京博物館の所蔵品をお借りして江戸時代の源氏物語の受容と展開に焦点を当て、同時開催の「上野アーティストプロジェクト2022 美をつむぐ源氏物語-めぐり逢ひける えには深しな-」では、源氏物語をテーマとし、書画だけでなく、染色、ガラス工芸など多様なジャンルの作家がとらえた源氏物語の世界を紹介した。関連事業も積極的に実施し、出品作家によるトークイベントのほか、2019年度より継続して実施しているダンス・ウェルを3年ぶりに対面式で実施し好評を得た。また、「都美セレクション グループ展2022」では、現代美術の動向を反映する3つの企画を紹介した。アート・コミュニケーション事業では、引き続き「とびらプロジェクト」「Museum Start あいうえの」で、オンラインとリアルを組み合わせ活発な活動を続けた。「エイジフレンドリー&ダイバーシティ事業(Creative Ageing ずっとび)では、「あいうえの」と連動し高齢者とティーンズ(15～18歳)が対話を行うプログラム「みる旅:タイムワープいとかし」を東京芸術大学大学美術館で実施。また、認知症の高齢者とその家族とアート・コミュニケーターとが展示室で作品と一緒に鑑賞するプログラムを台東区の医療・福祉機関と連携して「フィン・ユールとデンマークの椅子」及び「展覧会 岡本太郎」で実施。高齢者の社会参加の機会とした。上野地域の連携では、「あいうえの」による文化施設の連携を継続しながら、広報においても近隣商業施設等との連携広報を積極的に実施した。令和4年度もCOVID-19の影響を一定程度受けたが、休館することなく活動することができ、オンラインでの会議や発信などデジタル時代の取組みも定着してきている。令和5年度においては、ますます変動する社会情勢に柔軟に対応しつつ、東京都の「新文化戦略2030」と財団の「改訂長期ビジョン」等を参照し、指定管理事業の中間見直しに取組み、関係各機関と密接に情報を共有しながら、2026年の開館100周年を見据えて、着実に事業を実施していく。</p> <p>○全国の美術館の諸活動のありうる姿を、各方面にわたって切り開き提示して公立美術館のモデルといえる存在となってきた。COVID-19禍下の本年も、展覧会事業、公募展事業、アート・コミュニケーション事業、アメニティ事業のいずれにおいても、条件を踏まえ創意と熱意をもって多彩な活動を展開して成果を上げている。 ○上野という地域性の特徴を最大限に活用し、近隣の学術、芸術、商業施設との連携により、展覧会開催とアート・コミュニケーション、アメニティ事業を的確に履行し、公立美術館の指標となる理想的な運営形態に近づいていると高く評価する。 ○特別展はいずれも作品の質、展示、カタログすべてにおいて他館の範となるものであった。全ての企画において、鋭い問題意識とたゆまぬ研究の蓄積に支えられ、創意に満ちた企画展が実現したことは特筆されてよい。 ○企画展ではとりわけ「フィン・ユール」展が優れており、通常あまり足を運ばない若い年齢層にとって美術鑑賞の足掛かりを提供した。江戸東京博物館の所蔵品を用いた展示も都立館の所蔵品を効果的に用いた好企画であった。公募展作家を扱った「美をつむぐ源氏物語」展も公募展を身近なものと感じさせるきっかけとなった。 ○定評のあるアート・コミュニケーション事業は、多彩なプログラムが展開されており、期待にたがわぬものであった。特に、高齢者と若者をミックスさせて行った東京藝大美術館での対話プログラムや、アートコミュニケーターによるコミュニティ形成モデルの地方への展開など、いち美術館にとどまらない発信力は他にないものとして注目される。また、とびらの養成、高齢者・認知症の人々、日本語を十分に解せない外国出身者などへの対応は、国内美術館をリードする活動であり、今後のさらなる展開が期待される。 ○4つの事業のうち、アメニティ事業についてはまだまだ改善の余地があると思われる。コロナの為に入口から地下に降り、展覧会や公募展を楽しみ、そのまま地下から退出する動線だけが目立った。来場者が展覧会の余韻を楽しめるような居場所、空間がほしい。 ○館の運営に関しても適切になされており、総じて高く評価しうる。ユニークベニューについては、館の受入れ体制に見合った目標の設定や事業形態を検討する余地がある。</p>	<p>令和4年度も引き続き、検温、手指消毒、日時指定制による人数制限などを実施し、COVID-19感染拡大防止対策を徹底しながら、安全第一に美術館の運営を行った。ウェブサイトと多数のフォロワーを有するSNSによる効果的な情報提供に努めるとともに、日々多様な来館者にそれぞれ親切丁寧に対応している。アメニティ事業では、ショップ、美術情報室、レストラン等の緊密な情報交換を行いながら、更なるホスピタリティの向上に努めた。特別展では、「スコットランド国立美術館 THE GREATS 美の巨匠たち」でヨーロッパ絵画の精華を紹介し、「ポストン美術館展 芸術×カ」展で権力と美術の関係性をテーマに多様なジャンルの名品を展示した。「展覧会 岡本太郎」では過去最大級の規模の回顧展を開催し、「レオポルド美術館 エゴン・シーレ展 ウィーンが生んだ若き天才」では、約30年ぶりに夭折の天才の画業を振り返り、好評を得た。企画展では、デンマークを代表する家具デザイナーに焦点をあてた「フィン・ユールとデンマークの椅子」展を夏から秋にかけて実施。6万5千人の入場者と7500部の図録販売を記録した。また「コレクション展 源氏物語と江戸文化」では、休館中の江戸東京博物館の所蔵品をお借りして江戸時代の源氏物語の受容と展開に焦点を当て、同時開催の「上野アーティストプロジェクト2022 美をつむぐ源氏物語-めぐり逢ひける えには深しな-」では、源氏物語をテーマとし、書画だけでなく、染色、ガラス工芸など多様なジャンルの作家がとらえた源氏物語の世界を紹介した。関連事業も積極的に実施し、出品作家によるトークイベントのほか、2019年度より継続して実施しているダンス・ウェルを3年ぶりに対面式で実施し好評を得た。また、「都美セレクション グループ展2022」では、現代美術の動向を反映する3つの企画を紹介した。アート・コミュニケーション事業では、引き続き「とびらプロジェクト」「Museum Start あいうえの」で、オンラインとリアルを組み合わせ活発な活動を続けた。「エイジフレンドリー&ダイバーシティ事業(Creative Ageing ずっとび)では、「あいうえの」と連動し高齢者とティーンズ(15～18歳)が対話を行うプログラム「みる旅:タイムワープいとかし」を東京芸術大学大学美術館で実施。また、認知症の高齢者とその家族とアート・コミュニケーターとが展示室で作品と一緒に鑑賞するプログラムを台東区の医療・福祉機関と連携し「フィン・ユールとデンマークの椅子」及び「展覧会 岡本太郎」で実施し高齢者の社会参加の機会とした。また、年度末には昨年と今年度の活動をまとめた報告書を刊行し、ウェブでも公開している。</p> <p>上野地域の連携では、「あいうえの」による文化施設の連携を継続し、広報面では各展覧会における近隣商業施設との様々なコラボレーションを継続して実施しており、特に、「ポストン美術館展」「フィン・ユール展」において近隣35店舗と展覧会オリジナルポスターを制作し地域の店舗等の発信力を活用した告知を行うなど、連携広報の取組みを積極的に進めた。COVID-19感染拡大により上野公園を訪れる人の数は減少していたが、今年度は次第に状況が回復し、外国人の数も増えて、「春・音楽祭」など施設の連携イベントもCOVID-19感染拡大前に戻りつつある。</p>																																				

基本方針						令和4年度達成目標						成果と課題(評価指標の結果も含めた成果、分析、評価、課題、対応)																																									
<p>1 歴史的建造物である本館の保存とその公開</p> <p>2 装飾芸術に基づく新たな価値を今日の社会に活かす展覧会・各種事業の実施</p> <p>3 「歴史的建造物」、「装飾芸術」、「庭園」を三本柱とする文化的都市空間の形成</p> <p>4 あらゆる鑑賞者に開かれた美術館の実現</p> <p>東京都庭園美術館は、本館が昭和8年(1933)に建築されたアール・デコ様式の歴史的建造物であることから、昭和58(1983)年の設立以来、その「保存」と「活用」を運営方針としてきました。</p> <p>保存の面では、開館を期に本館の修復作業に着手し、また毎年、アール・デコ様式の調査研究を兼ねた「建物公開展」を開催してきました。その成果のひとつとして、本館は平成27年(2015)に、国の重要文化財「旧朝香宮邸」に指定されています。</p> <p>活用の面では、アール・デコという言葉が、「装飾芸術」(建築、デザイン、工芸、家具、美術等に表れる装飾性)を意味するフランス語に由来することから、これまで国内外の美術作品を、主として装飾芸術の観点から取り上げる展覧会を企画してきました。</p> <p>平成26(2014)年の新館改築を機に、館の運営方針には、「新たな価値の創造」が加えられました。これによって庭園美術館の展覧会事業には、今日の視点で装飾芸術を創造する芸術家の作品を展示することが加わりました。</p> <p>このほかに東京の文化の魅力の創造と発信に寄与するために、装飾芸術の価値を今日の社会に生かすという視点から、庭園の活用事業をはじめとして、さまざまな教育普及事業にも取り組んでいきます。</p> <p>以上の経緯により、庭園美術館は、重要文化財である「旧朝香宮邸」の保存と公開を基盤に、装飾芸術の力によって、東京という都市のこれからの課題である多文化共生、環境問題などに対応し、すべての都民の心を豊かにする場となることを目指していきます。</p>						<p>1 旧朝香宮邸の適正な維持管理及び調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財としての旧朝香宮邸本館・茶室を、緑あふれる庭園とともに適切に維持管理しつつ、歴史的沿革や建築史・美術史的特徴など調査研究を通してその価値を高めていきます。 						<p>重要文化財である旧朝香宮邸本館を適正に維持管理し、良好な状態を保ちつつ公開に努めた。茶室・庭園に関しても、本館同様文化財としての視点から適正な維持管理に努め、必要に応じて関係諸機関等と協議しつつ修復や樹木の剪定等を実施した。また、当館の沿革や特徴を広く紹介するため、アール・デコ期のデザイン画や図案集と朝香宮家旧蔵資料をそれぞれ購入により収集し、コレクションの充実にも努めた。また、収蔵品情報の公開に向けたデータベース整備作業にも注力した。</p>																																									
						<p>評価指標</p> <p>旧朝香宮邸関係やアール・デコ様式を中心とした装飾芸術に関するアーカイブ構築を目指した資料の収集を行い、適切な文化財維持管理や質の高い建物公開事業を行う基盤を整える。</p>						<p>新規収蔵作品・資料数3点(購入3点)、旧蔵家具資料状態調査および修復3点実施</p>																																									
						<p>2 建物公開展を通し、旧朝香宮邸の価値の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 旧朝香宮邸に関する調査研究の成果を反映した「建物公開展」を開催し、貴重な文化遺産に親しみつつ後世に継承するための契機とします。 						<p>令和4年度建物公開展(受託事業)として「建物公開2022 アール・デコの貴重書」展を開催し、これまでほとんど公開する機会がなかった当館収蔵の書籍資料類をメインに据えた展示を行った。このことで、旧朝香宮邸が建設された当時の歴史的・文化史的背景や、アール・デコに関するさまざまな情報をより広範に伝えることができ、来館者の理解を深めつつ、より多彩な情報を提供することができた。</p>																																									
						<p>評価指標</p> <p>建物公開展の入場者数 満足度</p>						<p>入場者数32,297人(一日平均733人)、満足度91.3%</p>																																									
<p>3 装飾芸術をテーマの主軸とした企画展を通し、優れた作品等の鑑賞機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> アール・デコ様式の原点である「装飾芸術」の観点から幅広いジャンルの多様な表現を採り上げ、新たな価値の創出へと繋げます。 当館の空間特性を活かし、先端的表現や新たな展示手法の導入を通じて国内外の装飾芸術を魅力的なカタチで紹介しします。 						<p>評価指標</p> <p>庭園美術館の基本方針に基づく学芸員の独自の視点で企画した展覧会に対する専門家による展覧会評の数</p>						<p>令和4年度企画展として「蜷川実花 瞬く光の庭」展、「旅と想像／創造 いくつかあなたの旅になる」展、「交歓するモダン 機能と装飾のポリフォニー」展を開催した。第一線で活躍する現代作家とのコラボレーションにより実現した現代美術展から、コロナ禍のなかで「旅」を再考する独自企画のアンソロジー展、装飾性と機能性との関係を豊富な作品資料から考察的に紹介する近代デザイン展と、当館の環境特性を活かした多彩な展示を実現した。</p>																																									
						<p>評価指標</p> <p>庭園美術館の基本方針に基づく学芸員の独自の視点で企画した展覧会に対する専門家による展覧会評の数</p>						<p>展覧会評:「奇想のモード」5件(朝日新聞他)、「旅と想像／創造」展2件(東京新聞他)、「機能と装飾のポリフォニー」2件(公明新聞ほか)</p>																																									
						<p>4 建物や庭園などの文化資源を活用した教育普及等の事業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 本館に施された装飾をテーマとしたワークショップや、庭園・茶室を活用した各種イベント等の開催を通じ、文化財の価値や意義を楽しく理解できるよう工夫します。 						<p>茶室「光華」を活用した季節毎の茶会を実施したほか、親子を対象とした「こども茶会」や、茶室の建築に焦点を当て、専門家を講師に招聘してのトークイベントを開催した。また、初心者とこどもを対象とした茶会ガイド「茶室光華によろこそ」を作成し、体験イベントを開催した。「交歓するモダン 機能と装飾のポリフォニー」展ではジュニアガイドを作成し、展示内容を分かりやすく解説した。スクールプログラムの充実にも努めた。</p>																																									
						<p>評価指標</p> <p>建物や展覧会鑑賞用の独自のガイドブックを活用した学校連携の実施。参加したクラス数</p>						<p>季節の茶会計4回(計207人参加)、体験イベント5回(計157人参加)、スクールプログラム9校12回</p>																																									
<p>5 ユニークな空間特性を生かし、豊かな文化的体験の場を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 緑豊かな庭園の中に本館建物や茶室、レストラン、ショップが点在するユニークな環境を活かし、「美術館＝展覧会鑑賞の場」という既存概念に捉われない、多様で豊かな文化的体験の場を提供します。 						<p>ユニークな空間特性を生かし、豊かな文化的体験の場を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 緑豊かな庭園の中に本館建物や茶室、レストラン、ショップが点在するユニークな環境を活かし、「美術館＝展覧会鑑賞の場」という既存概念に捉われない、多様で豊かな文化的体験の場を提供します。 						<p>庭園活性化策の一環として、芝庭を会場とした音楽鑑賞イベント「ガーデンコンサート」及び、文化財庭園の歴史的沿革や見所などを解説しつつ巡る「ガーデンツアー」を実施した。また、旧門衛所をショップ兼情報コーナーとして整備し、妹島新館長監修によるランドスケープをテーマとした小展示も開催し、旧宮家の邸宅を美術館として活用する当館ならではの、新たな鑑賞体験の提供に努めた。</p>																																									
						<p>評価指標</p> <p>ガーデンコンサート、近代都市邸宅の庭園について等、庭園レクチャーを実施するなど、多様で豊かな文化的体験の場を提供していく。</p>						<p>ガーデンコンサート1回(430人参加)、ガーデンツアー2回(計35人参加)</p>																																									
						<p>6 庭園を活用し、地域連携事業や交流の場を提供</p> <ul style="list-style-type: none"> 近隣他施設や組織と連携し、庭園での茶会、ワークショップ等の開催を通じて、地域連携や交流の場を提供します。 						<p>当館をハブとした地域連携と文化交流を目的に、茶室を活用した新規事業「光華倶楽部」を試行的に実施した。港区内に所在する大使館と高校にそれぞれ働きかけ、両者が当館の茶室を会場に、茶会を通じて相互理解と交流を図る場を提供した。高校生による大使館職員への呈茶と、返礼としての高校生の大使館訪問というユニークな構成で、庭園と茶室を活用した今後の展開に新たな可能性を見出す契機とすることができた。</p>																																									
						<p>評価指標</p> <p>庭園を活用した地域交流事業</p>						<p>光華倶楽部1回(41人参加)</p>																																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H31年度実績値</th> <th>R2年度実績値</th> <th>R3年度実績値</th> <th>R4年度基準値</th> <th>R4年度実績値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>観覧者数(人)</td> <td>145,360</td> <td>100,473</td> <td>123,886</td> <td><185,000></td> <td>151,537</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: right;">参考目標値</td> <td>137,500</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>庭園のみ入場者数(人)</td> <td>57,733</td> <td>49,401</td> <td>39,110</td> <td></td> <td>64,104</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: right;">参考目標値</td> <td>61,200</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>自主事業参加者数(人)</td> <td>-</td> <td>806</td> <td>1,009</td> <td></td> <td>3,389</td> </tr> </tbody> </table> <p>※R4年度基準値は、提案書の基準値</p>							H31年度実績値	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度基準値	R4年度実績値	観覧者数(人)	145,360	100,473	123,886	<185,000>	151,537	参考目標値				137,500	-	庭園のみ入場者数(人)	57,733	49,401	39,110		64,104	参考目標値				61,200	-	自主事業参加者数(人)	-	806	1,009		3,389	<p>7 共生社会を指向する事業と施設管理</p> <ul style="list-style-type: none"> クリエイティブ・ウェル事業の実施や施設のバリアフリー化を通じて、様々な人々に広く鑑賞機会を提供していきます。 						<p>昨年度に引き続き、障害のある方のための特別鑑賞会及び親子ベビーカートゥアーを実施し、さまざまな課題を有する方々にも美術鑑賞の機会を提供するよう努めた。今年度はさらに「蜷川実花」展の会期中、乳幼児を連れた来館者向けの新企画「ベビーデー」を試行し、誰でも気兼ねなく美術鑑賞ができる環境の創出に努めた。また、「やさしい日本語」を用いたダイバーシティープログラムにも取り組んだ。</p>					
							H31年度実績値	R2年度実績値	R3年度実績値	R4年度基準値	R4年度実績値																																										
						観覧者数(人)	145,360	100,473	123,886	<185,000>	151,537																																										
						参考目標値				137,500	-																																										
庭園のみ入場者数(人)	57,733	49,401	39,110		64,104																																																
参考目標値				61,200	-																																																
自主事業参加者数(人)	-	806	1,009		3,389																																																
<p>評価指標</p> <p>クリエイティブ・ウェル・プロジェクトの取り組み、参加者の満足度</p>						<p>障害のある方のための特別鑑賞会4日間(計112人参加)、親子ベビーツアー3日間(計85人参加)、ベビーデー1日(136人参加)、「やさしい日本語」を用いたダイバーシティープログラム2回(計18人参加)</p>																																															
<p>8 様々な媒体を通し、美術館活動を国内外に発信</p> <ul style="list-style-type: none"> アール・デコの装飾が良好に保たれた、世界的にも貴重な建造物である「旧朝香宮邸」を美術館とするユニークな特性を活かした当館ならではの取り組みを、様々な媒体を通して広く国内外に発信します。 						<p>様々な媒体を通し、美術館活動を国内外に発信</p> <ul style="list-style-type: none"> アール・デコの装飾が良好に保たれた、世界的にも貴重な建造物である「旧朝香宮邸」を美術館とするユニークな特性を活かした当館ならではの取り組みを、様々な媒体を通して広く国内外に発信します。 						<p>「建物公開2022 アール・デコの貴重書」展会場を360度3Dカメラ(Matterport)で撮影し、デジタルアーカイブ化を図るとともに、当館HP上でオンライン配信することで、会期終了後も継続して鑑賞できるよう配慮した。また、「蜷川実花」展では会場内から担当学芸員によるインスタライブを実施したほか、展覧会毎にオンライン配信によるギャラリートークを実施した。さらに、昨年度までの館長講座に代わり新たに美術館講座を開講し、内外の講師による多彩なテーマでの情報発信に努めた。</p>																																									
<p>評価指標</p> <p>オンラインで展覧会会場を記録した動画等独自コンテンツの発信</p>						<p>3Dオンラインビューイングの配信(建物公開展)、インスタライブの実施(蜷川実花展)、オンラインギャラリートーク(各展覧会毎)、美術館講座の実施計4回</p>																																															

総合的な所見(自己評価の総評)

コロナ禍による各種の制約に悩まされた昨年度から一転し、今年度は感染症と共存しつつ、いかに活動の幅を広げられるかが課題となった一年だった。事前予約制による混雑緩和策や、入館時の検温・手指消毒など感染予防・拡大への取り組みを継続しつつ、展覧会そのものや庭園・茶室を活用した各種関連事業・イベントの充実にも努めた。まさに職員が一丸となって創意工夫した結果、年度内に開催した各展覧会はそれぞれ独創的で唯一無二の内容とすることができ、当館らしさを最大限に発揮することができた。関連映画の上映やジュニアガイドの作成など、当館担当者の発案による巡回展の内容充実策に加えて、展覧会場からのインスタライブ配信やゲストを迎えてのオンラインギャラリートークの実施など、意欲的な情報発信も特筆に値する。また、大使館と高校生との交流イベント「光華倶楽部」の実施やベビーデーの試行など、地域連携や共生社会の実現に向けた各種事業にも積極的に取り組み、それぞれ成果を収めることができた。運営面でも妹島和世新館長を迎え、館内外の回遊性を高めつつ、新たな鑑賞体験の創出に向けた整備計画が始動するなど新たな展開が見られた。こうした多彩な活動を下支えしているのは、重要文化財「旧朝香宮邸」を良好な状態に保ちつつ、文化施設として活用するために必要な日常の建物維持管理業務ほかの諸業務であるが、これらについても担当者の尽力により円滑に遂行できた。開館40周年を迎える令和5年度を前に、たいへん充実した一年とすることができたと自負している。

外部評価 評定結果

A

総合的な意見(総評)

- A: 目標を十分に達成し、成果を上げている
 B: 目標を概ね達成している
 C: 目標を十分に達成しておらず、改善が必要である

重要文化財の歴史的建造物という恵まれた資源を持ちながら、それを守るということだけでなく、新しいことにチャレンジし、「攻めの姿勢」が際立つ1年だった。新しいことを立ち上げると、その展開となるこの2~3年はとても大事だと思う。一方で、今年度の展覧会はとくにそうだったが、庭園美術館はスペシャリストがいてこそ成り立っている。人事異動のことは何とも言えないが、スペシャリスト、人材育成も大事にしてほしい。この美術館はやはり他にはない特徴をもった空間であり、だからこそ他館とは違う特有のあり方を目指すべきだと思う。そういう意味で、全体的にいい方向に向かっている。美術館はもはや展覧会だけではない。さまざまな事業や建物管理も含めて、充実したとても良い1年だった。